



相ノ木っ子だより

令和元年度
学校だより
10 月 号
上市町立相ノ木小学校

全国学力・学習状況調査の結果から



毎年4月に行っている6年生の全国学力・学習状況調査。国や県の平均と比較しながら分析し、学校全体の成果や課題として捉え、今後の学習や教育に生かしていくものです。今年度の結果について保護者の皆さんにお知らせし、学校と家庭が共通理解をし、協力しながら、子供たちのさらなる学習の伸長、生活習慣の改善に向けて取り組んでいきたいです。

学力調査に関しては、国語科では、「自分の考えを明確にし、まとめて書く・読む」は良好でしたが、「言語についての知識・理解・技能」が苦手でした。これは、児童への質問（学力状況調査）の「国語科が好きである」「読書が好きである」「新聞を読んでいる」の割合が低いことにも要因があるようです。もっと言語や文章にふれさせるようにし、そのおもしろさを感じさせたいです。算数科では、「グラフの読み取り」「計算技能」が良好でしたが、「面積の求め方の説明を記述する」「数量の増減の理由を記述する」が苦手でした。これは、算数科を好きな子が多く、総体的に良好なのですが、やはり「文章で表現する」ことに難点があるようです。

総じて、学習面では、基礎・基本の定着、話し合い活動の充実による成果が表れている一方、文章や言語をしっかりと読む・書く活動が十分でないことが伺えます。また、児童への質問（学力状況調査）の「授業で学んだことを他の学習に生かしている」「学習が将来役に立つと思う」「学習を普段の生活で活用できないか考える」「家で計画を立てて勉強している」の割合が低いことも課題です。学んだことを生活で実感できる場を学校や家庭で多く与えるようにし、学習の意義や意味を体感させながら真の学習者としての気構えを構築していく必要があると考えます。

次に、心の成長についてですが、「家の人と学校の出来事を話している」「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の割合が高かったです。社会性や人間性が問われる心の成長が見られることがとてもうれしいです。しかし、「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」の割合が低い傾向にあり、自分に自信がもてず、自己肯定感が低いことが気になるところです。先述したような自分の学びを実感する場が多くなれば、きっと自分の成長をしっかりと感じるができるでしょう。そして、自分のよさを知り、自分のことを少しでも好きになり、将来への夢や目標をもって前向きに生きていくことができると思います。

作家の丸山健二さんは、著書「生きるなんて」で次のように言っています。

自分を頼りにして生きることほど痛快なことはありません。

頼れるような自分に改造してゆくことほどおもしろいことはありません。

自分自身への採点が厳しいことは、ある意味謙虚かもしれませんが、やはり自分に自信をもち、逞しく自分を鍛えていく子供たちであってほしいものです。そして、自己肯定感を高めていくことが、子供たちの自立への大きなステップになります。ちょっとした成長を認め、褒めてあげることが重要です。

最後に、まど・みちおさんの「ぼくは何を」という詩です。

ぼくは何をもっているのだ

やさしさなら お母さんがもっている 勇気なら お父さんが すなおさなら ポチが
賢さなら 先生がもっている がまん強さなら 冬のムギが 勤勉さなら 夏のアリが
そして 美しさなら 道ばたの一本のタンポポがもっている

で ぼくよ 何をもっているのだ

いつも後で しまったと思う おっちょこちょいと だれにも負けない いたずら心の他に……

笑うなかれ！ 希望だ……

やさしくて 勇気があって すなおで 賢くて がまん強く 勤勉な

美しい心に ぼくは少しでも近づきたいという……

笑うなかれ！という ぼくよ 自分で笑っちゃ サマにならぬぞよ！

相ノ木っ子のみんな、何ももっていないと嘆くな！何かをもちたいという希望をもて！

掃除や整理整頓に励むと・・・

「〇〇さん、そこ拭いておいてね」「分かった、班長」「お願いね」

これは、なかよし班による清掃活動でのやり取りです。下級生に指示したり教えたりする上級生、黙々と雑巾がけをする子、洗面所の流しを一生懸命こすっている子等、子供たちは、校内の掃除にまじめに取り組んでいます。まあ、中には体よりも口の方がよく動いている子も見受けられますが・・・

掃除や環境整備に関しては、子供にしても、大人にしても、それぞれ好き嫌いや得手不得手が存在します。日々の整理整頓についても同様のことが言えるでしょう。「きれいになるといいな」「きちんとしていないと落ち着かない」と考える人もいれば、「ちょっとぐらい汚くてもいいだろう」「めんどくさいな」と捉える人もいます。わたしは、どちらかと言えば、見えている所はきれいになっていてほしい、まっすぐの物が曲がっていたりきちんとそろっていなかったりするとちょっと我慢できないといった少々勝手な几帳面さをもっているようです。ですから、公道でもごみが落ちていたり、公的な場所で掲示物が剥がれていたりすると、とても気になります。まあ、性格や性分といったものは、なかなか治らないものだと思っと思っています。

性格や性分、好き嫌いや得手不得手を抜きにして、子供たちには掃除や整理整頓をきちんとできるように指導していかなければなりません。社会に出た時に、掃除や整理整頓から目を背けるようでは、やはり仕事の能率が上がらないでしょうし、日常生活に困難が生じる危険性も出てきます。子供たちの将来を考えると、今のうちからきちんと環境を整えられる習慣を身に付けさせなければなりませんね。

きれいにおそうじをすると 貧しくても美しく生きられる

きれいにおそうじをして お客さまをむかえよう

見えないところをきれいにすると 自分をみがくことができる

すてられたごみをかたづけると 日本を美しくすることができる

みんなでおそうじをして 青い地球をきれいにしよう



これは、円福寺の住職だった藤本幸邦さんの「おそうじをする」という詩です。掃除という生活習慣は、周りの人のためでもあります。何よりも自分のためであることを忘れないようにしたいです。温かい気持ち、自分みがき、自分の生き方に関わってくるということを肝に銘じて、自分を取り巻く環境をきれいで、豊かなものにしていきたいものです。また、藤本さんは、「はきものをそろえる」という詩で、こうも言っています。

はきものをそろえると 心もそろう

心がそろうと はきものもそろう

ぬぐとときに そろえておくと はくときに 心がみだれない

だれかが みだしておいたら だまってそろえて おいてあげよう

そうすればきっと 世界中の人の心も そろうでしょう

この詩は、単に整理整頓の大切さを知らしめるだけでなく、整理整頓に向かう心が互いの心の協調や心の安定に繋がることを教えてくれます。

相ノ木っ子のみんな、自分のため、みんなのために掃除や整理整頓に励んでいこう！

行事予定 (10月中旬～11月中旬)

10月15日(火)	科学博物館観覧(4年)	11月6日(水)	小学校教育課程研究集会
17日(木)	町図工大会 下校 14:45		下校 1年 10:25
18日(金)	要請訪問研修会		6年 10:45
	下校 2・3・4・5年 13:20		2～5年休業日
	1・6年 14:45	15日(金)	学習発表会
21日(月)	研修会のため 下校 13:20		
25日(金)	学習参観・学校保健委員会		
	下校 15:30		

